

2013年度（前期）指定公募②
「在宅医療推進のための研究会、研修会への助成および学会等への共催」

シリーズ第5回
在宅で医療的ケアを行う障がい児への訪問看護の
実践能力を高める研修会
報告書

2014年10月6日提出

熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門
看護学講座 母子看護学分野 小児看護学領域
助教 生田まちよ

開催の概要

近年の小児医療の進歩によって重症な健康問題をもつ小児の命が救われるようになりました。しかし、症状が安定した後も医療的ケアの必要な健康問題や障害をもつ小児が増えてきています。そのような中、高度で医療的ケアが必要な小児でも家庭で過ごせる範囲が拡大しています。その背景には、近年の医学の進歩による診断や治療技術の進歩、医療機器が小型化して持ち運びが容易になり操作も簡便になったこと、医療費削減のために入院期間の短縮がはかられ在宅医療を支える保健福祉施策が少しずつ整備されてきたことなどが挙げられます。しかし、小児の在宅医療においては、まだ、社会資源の体制やマンパワーの不足等が問題となっています。病院から在宅に移行した障がい児は、気管切開部の処置、人工呼吸器、胃瘻などの医療依存度が非常に高い場合が多い状況です。これらの在宅医療を可能にするためには、訪問看護はたいへん大きな力となります。しかし、在宅ケアを担う訪問看護師は、障がい児やその家族の看護に対しての知識や技術に不安を持ち、受け入れを躊躇するところも少なくない状況がありました。一方、これまでの看護師の基礎看護教育や卒後教育は、在宅での小児看護や障がい児看護に対しての学習の機会が少ない状況でした。そこで、小児看護や家族看護、在宅で人工呼吸器を装着して生活する子どものケアに関する知識や技術など医療的ケアを行う障がい児の一連の訪問看護ケア・技術や知識を習得できるような研修を主催しました。これまで、2010年3月・4月に「第1回在宅人工呼吸療法を行う小児の在宅看護研修」（1日4～8時間で全4日間コース）、2012年2月・3月に「第2回在宅で医療的ケアを行う障がい児の訪問看護の研修」（1日4～8時間で全4日間コース）、2012年5月から7月に熊本大学公開講座「在宅で医療的ケアを行う障がい児の訪問看護の基礎」（1日8時間で全6日間コース）、2013年6月から9月に熊本大学公開講座「小児訪問看護－在宅で医療的ケアを行う障がい児の看護の基礎」（1日8時間で全6日間コース）を開催して、九州・関西地域の多くの訪問看護師や小児関連の病院看護師に参加していただきました。

今回の研修は、同様のシリーズとして第5回目となりました。今回は、公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けたものになり、よりパワーアップして皆様のニーズに合った内容を目指しました。

障がい児の疾患や発達などの医療的知識・看護ケア、看護技術の理論と実践、家族看護、訪問看護の実際、小児在宅医療制度など、障がい児の看護に必要な理論と実践を身につけることができるようなプログラムとしました。また、演習の時間を多く取り入れてより実践的なものとして、演習のための演習補助としてのインストラクターも4～5名として、濃密な演習ができるようにしました。

以下、今回の研修の案内や参加者の概要、プログラムの詳細をご報告いたします。

1. 案内用ポスター

シリーズ 第5回 在宅で医療的ケアを行う障がい児への 訪問看護の実践能力を高める研修会

- 本研修は、障がい児の疾患や発達などの医療的知識・看護ケアの理論と実践、家族看護、訪問看護の実際など、演習を多く取り入れて、1カールの研修で在宅療養の障がい児の看護に必要な理論と実践を身につけることができます。また、訪問看護師だけでなく、病院で在宅療養に移行するケアを行っている看護師の皆様にも効果的な研修になると思います。新人教育にも御活用ください。多くの方の参加をお待ちしています。

募集対象: 障がい児看護、小児訪問看護に興味のある看護師

募集人数: 50名程（定員になり次第締め切り）

研修内容と参加費: 研修は、5月・6月・7月・8月で1セットです。4ヵ月1セットで受講する方法と各月ごとに単発で受講する方法があります。

4ヵ月1セットで受講する場合: 6,000円
各月ごとに単発で受講する場合: ひと月2,000円
 参加時に支払いをお願いします。



申込方法: 往復はがきにて下記の申込先に応募
 氏名・勤務先・連絡先(住所・電話番号・Eメール)・
 受講希望タイプ(1セット・5月・6月・7月・8月のいずれか)
 を必ず記入してください。

プログラム

5月	24日(土)	① 在宅療養児の疾患や症状について
		② 在宅療養児の現状と動向
	25日(日)	③ 在宅療養児の看護総論
		④ 在宅療養児の看護ケア
6月	21日(土)	⑤ 在宅療養児の栄養管理・内服管理
		⑥ 在宅療養児のフィジカルアセスメントの理論と演習
	22日(日)	⑦ 在宅療養児の摂食機能について
7月		⑧ 障がい児の理学療法の理論と演習
	19日(土)	⑨ 在宅療養児の医療機器の使用の基本
		⑩ 小児の救急蘇生法の理論と演習
	20日(日)	⑪ 在宅療養児の家族の看護 I
8月		⑫ 障がい児の気道クリアランスの理論と演習
		⑬ 在宅療養児の家族の看護 II (家族の講話含む)
	30日(土)	⑭ 小児在宅医療の制度について
		⑮ 在宅療養児の訪問看護の管理と実際
	31日(日)	⑯ 訪問看護ステーションにおける小児看護の実際
		⑰ 病院での在宅移行コーディネートの実際

会場:

熊本大学医学部保健学科
 熊本市中央区九品寺4-24-1

研修開始: 10:00

研修終了: 17:00



問い合わせ / 申込先

熊本大学大学院 生命科学研究部
 看護学講座 小児看護学領域
 生田

〒862-0976

熊本市中央区九品寺4-24-1

TEL/FAX: 096-373-5565

Eメール: shounizaitakuk@gmail.com

講師は、障がい児ケアを実践されている専門の先生方を予定しています。

主催: 熊本大学大学院生命科学研究部 看護学講座
 小児看護学領域 生田まちよ

後援: 熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会

この研修は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています

2. 研修内容の詳細（日時・講義テーマ・講師の紹介）

5月24日（土）

10：00～12：30

在宅療養児の疾患や症状について

熊本大学医学部附属病院小児科 日本小児神経学会専門医
小篠 史郎 先生

13：30～15：00

在宅療養児の現状と動向

熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会会長
おがた小児科・内科医院院長
緒方 健一 先生

15：20～16：30

グループワーク（参加者の状況と問題点の共有）

ファシリテーター

熊本大学大学院生命科学研究部 看護学講座小児看護学領域 助教
生田 まちよ 先生

5月25日（日）

10：00～12：30

在宅療養児の看護総論

熊本大学大学院生命科学研究部 看護学講座小児看護学領域 助教
生田 まちよ 先生

13：30～16：30

在宅療養児の看護ケア

熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座小児看護学領域 助教
生田 まちよ 先生

6月21日（土）

10：00～12：30

在宅療養児の栄養管理・内服管理

熊本大学医学部附属病院小児科 日本小児神経学会専門医
小篠 史郎 先生

13：30～16：30

在宅療養児のフィジカルアセスメントの理論と演習

熊本大学医学部附属病院 新生児医学講座 特任教授
三淵 浩 先生

6月22日(日)

10:00~12:30

在宅療養児の摂食機能について

熊本保健科学大学リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻長

小菌 真知子 先生

13:30~16:30

障がい児の理学療法の理論と演習

九州中央リハビリテーション学院 小児理学療法講師

浪本 正晴 先生

演習補助の5名の先生方

7月19日(土)

10:00~12:30

在宅療養児の医療機器の使用の基本

熊本大学医学部附属病院 ME 機器センター 臨床工学技士/第1種 ME 技術者

山下 大輔 先生

13:30~17:00

障がい児の気道クリアランスの理論と演習

おがた小児科・内科医院 理学療法士

上田 恵理奈 先生

演習補助の4名の先生方

7月20日(日)

10:00~12:30

在宅療養児の家族の看護 I

熊本大学大学院生命科学研究部 看護学講座小児看護学領域 助教

生田 まちよ 先生

13:30~16:30

小児の救急蘇生法の理論と演習

熊本市立熊本市民病院 麻酔科部長

日本麻酔科学会認定麻酔指導医 日本小児麻酔科学会評議員

増田 和之 先生

演習補助の4名の先生方

8月30日(土)

10:00~12:30

在宅療養児の家族の看護 II(家族の講話含む)

障がい児のお母様のお話 西嶋 美恵 様

障がいをもつ子どもの「きょうだい」を支える

九州大学大学院 人間環境学研究院臨床心理学講座 教授

遠矢 浩一 先生

13：30～15：00

小児在宅医療の制度について

熊本大学医学部附属病院 地域医療連携センター

NICU 在宅支援コーディネーター

森 京子 先生

15：10～16：40

在宅療養児の訪問看護の管理と実際

熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 管理者代表

/訪問看護ステーション清雅苑管理者

木村 浩美 先生

8月31日（日）

10：00～12：30

訪問看護ステーションにおける小児看護の実際（事例を通して）

熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 管理者代表

/訪問看護ステーション清雅苑管理者

木村 浩美 先生

13：30～15：30

病院での小児の在宅移行コーディネートの実際

熊本市立熊本市民病院 小児専門看護師

NICU 在宅支援コーディネーター

鍬田 晃子 先生

15：45～17：30

まとめ グループワーク（問題点とその対策）

ファシリテーター/コメンテーター

熊本大学大学院生命科学研究部 看護学講座小児看護学領域 助教

生田まちよ 先生

コメンテーター

熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 管理者代表

/訪問看護ステーション清雅苑管理者

木村 浩美 先生

熊本市立熊本市民病院 小児専門看護師 NICU 在宅支援コーディネーター

鍬田 晃子 先生

3. 参加者の概要

5月から8月までの全コースを通して受講する参加者は50名、単月コースでの応募でひと月から複数月を受講した参加者は36名でした。参加者の地域別では、福岡県からの参加が最も多く、次に多かったのが熊本県でした。鹿児島県、長崎県、佐賀県、宮崎県、沖縄県や山口県、広島県、大阪府と九州各県と西日本地域からの参加がありました

た。全8日間のプログラムを通して遠方からも毎回参加していただき、参加者の小児訪問看護や障がい児看護への思いの熱さが伝わってきました。

訪問看護師の皆様だけでなく、病院での障がい児看護や在宅療養に移行するケアを行っている看護師やNICUで勤務する看護師の皆様の多くの参加をいただき、それぞれの立場の違いのなかでのケアなどの情報交換もできていたのではないかと思います。

講師の先生方は、実際に小児在宅医療や障がい児看護・小児看護、家族ケアに携わっていらっしゃる、のべ35名の先生方にご教授をいただきました。実際のケアの場での経験などを交えながらのご講義で、すぐにでも役立ちそうな内容や参加者それぞれのケアを振り返ることができるような内容を多くお話いただきました。

4. 研修会の様子



講義の様子①



講義の様子②



演習の様子①



演習の様子②



演習の様子③



グループワークの様子

5. 研修会アンケート

ここで、研修最終日に実施したアンケートの中の参加者の皆様のご意見を紹介いたします。

●研修会満足度：

研修参加への満足度は、1（不満足）から10（満足）の視覚的アナログ尺度を使用した満足度を調査を行いました。その結果、満足度の最小値は6、最大値は、10、中央値は9、平均は8.9で、満足度は高いようでした。

●満足な内容の意見の抜粋

- ・1つ1つたいへん研修内容を組み立てあり理解できた。
- ・家族看護の視点の知識が得られ、全体的にすべての講義が勉強になりよかった。
- ・疾患の整理ができ、わかりやすかった。
- ・疾患の基本的なことから学べたのがよかった。
- ・とても様々な話をきくことができ、特に、実際の小児訪問看護の話は勉強になった。
- ・実技演習のある講義は、とても新鮮で勉強になった。
- ・小児看護全般で、栄養やフィジカルアセスメント、呼吸リハなど学ぶことができ、すぐに実践に活かせた。
- ・基礎から様々な視点からのアドバイスなどもあり、たいへん勉強になった。
- ・グループワークでは、他の方との交流もでき、学びも多く勉強になった。
- ・小児の在宅看護に必要なことが網羅されている。質問にも答えていただけたところがよかった。
- ・演習では、指導の先生が何人もいらして、少人数グループで密に指導していただいた。
- ・自分の地域では経験したことがないようなことを知ったり、新しい情報を知ることができた。
- ・すべての内容が現場のニーズに即したものだだった。
- ・小児看護の経験が少ないので、事例が多く紹介された講義がとてもありがたかった。
- ・小児の在宅は、全く未知の世界であり、疾患から対応・看護まで、幅広く、また、内容が深く学ぶことができた。特に演習では実践を学ぶことでより深く学べた。

などの意見がありました。

●不満足な内容の意見の抜粋

- ・講義の内容でもう少し聞きたい内容があった。
- ・講義の際にあげる疾患に偏りがあったように思う（脳性麻痺や筋ジスなど）。
- ・資料が、字が見えにくいところがあった。
- ・演習は、もう少し余裕が欲しかった。

などの意見がありました。

6. まとめ

今回の参加者は、訪問看護ステーションだけでなく、NICU や重症心身障害児（者）病棟勤務などと多岐にわたりました。また、参加者の地域は、九州・沖縄各県、西日本と広範囲にわたりました。

講師の先生方は、実際のケアに役立てることができるような実践的な内容の講義や演習にところがけていただきました。講師の先生方がわかりやすい講義等をしていただいたことやグループワーク等での参加者間の情報交換などを通して、現在抱えている問題の解決のヒントを得られ、参加者にとって満足度の高い研修を実施することができたのではないかと思います。

また、参加者の皆さんも、講義や演習を通して多くの質問をしていただき、たいへん積極的に熱心に参加していただきました。講師の先生方、参加者の皆様にこそより感謝いたします。

今回のアンケートの意見を参考にして今後も、在宅療養児の看護を行う看護師の皆様のニーズにあった研修を計画していきたいと思っております。

最後になりましたが、本研修会は、公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団により助成を受けております。おかげをもちまして無事に研修会を終了することができました。公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団に深く感謝をいたします。